

## 『大学を学ぶ』著者・大西広さんからの主要なコメント

「自由な発想をする人は、自立し、一本筋が通った考えをもっているとしても多様な発想をしているのではないのでしょうか。何かについて一つの発想ではなく多様な発想をもつことは、簡単にできることではありません。頭を柔らかくし、若いうちから創造力をめくらせ、意識して頭を回転させないと、いきなり多様な発想をもつことはできないでしょう」。

私が引用文で「多様な個性」が社会に必要だと言っているのは一つの社会には様々な個性が存在していなければならない、という意味で、同一の個人が色々な個性を持つと言っているのではありません。

「序論でも述べたように、このような能力を付けるためには、あらゆる経験や考えを持つため、もっとじっくり社会や自然の動向を見つめ直し、自立した自分を作ることが先決である。しかし、これらも別の意味で、社会に応じた人間形成を行っているのではないかと思われる」。

そういう意図で書きました。「社会の必要事になる」という意味です。

「現役大学生の中に、大学内で勉強以外のことを学んでいるかといえば、多くの学生がその場を獲得していないだろう。私はその場を少しずつ活用していきたいと思うが、その場を活用したいと思う学生が少ないように思う。では、それらの学生の意識を向上させるためにはどうしたらよいのだろうか」。

その改善の手はじめに、私たちはこの本を書きました。他人にも読ませて下さい。

「日本はなぜこれほど欧米型にはまっているのだろうか。日本はアジアなのになぜアジアとあまりつきあわないのか。高校までの教育でわかるように外国語は英語を主体としている。たしかに英語は多くのくんで使われているので便利かもしれない」。

一応私はこれ（外国語は英語を主体としていること）には反対してません。ただ、そうでない人がいてもいいかも知れないという意味です。

「中国は、日本に一番近い国であり、将来最も伸びると言われている。だから、中国に興味をわき、中国語を学んでみようと思うのではないかと。私もそういう理由で、第2外国語に中国語を選んだ」。

正しい選択だったと思います。

「大学とはどういう所か、価値は大学そのものにあるのではなく、学生がどのように大学を活用し、自分に「付加価値」をつけたかによる、とある。確かに、上手く大学を活用し自分のものにできなければ、意味がないかもしれない。だが、それが本当に真実であるかは疑問だ。理想のように思えてならない」。

それは狭い経験の中で言えるだけで、逆の例もたくさんあります。

「どんな仕事に就くにしても、思考力は大事で、詰め込み型教育は無意味だと思うが、現実的にみると、教育現場においては詰め込み・暗記が中心になっている。入試をはじめテストや資格取得には、結局暗記がつきものである。詰め込み教育・学習を否定する前に、実際の教育状態を変えるべきであると思う」。

詰め込み教育を批判することなしに実際の教育状態を変えられますか？

「『自立した自分をつくる』ということは、重要なことではあると思うが、実際にはなかなか難しいだろう。それはそもそも、自分自身の考え方やあるべき姿が描けるようになってからこそできる作業だと思う。そしてその第一段階をクリアしたとしても、実際に「自立した自分」を設計するのは非常に難しいことだと思う」。

「なってから」でなく、「なること」それ自身が「自立した自分を作る」ことだと思います。